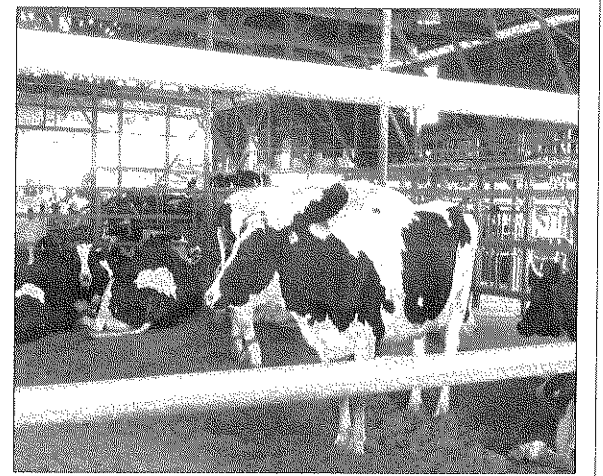


えさ代2倍で酪農存続の危機

「毎月赤字、継続的な支援を求む」の声

世界的な穀物不足や異常円安により、飼料価格は2倍以上に。コロナの影響で乳価や枝肉は暴落。政府の支援策は、農家の要求にほど遠い状況です。党市議団は酪農組合の要望・意見を聞き、市に届けて対策を求めていきます。



党市議団(大谷、日隈両市議)は、日田酪農組合の事務所で組合長や職員と懇談し、実情を伺いました。組合長は「市の輸入の工サ代高騰に対する支援策(昨

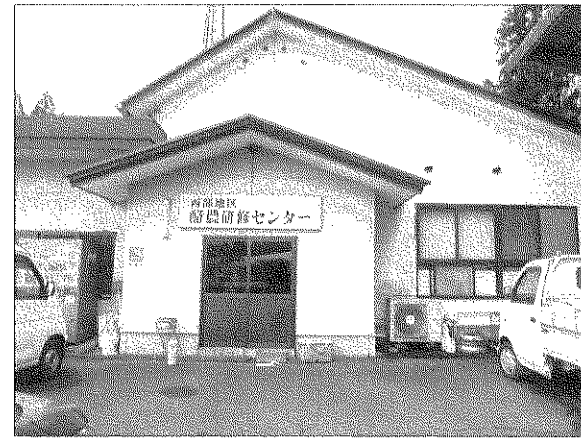
と困難な事情を述べていました。日田市では農業生産額のトップは畜産です。畜産は今年止めても来年作付けすればよい水稲や野菜とは違います。今、若い後継者もいるだけに、継続的な支援が求められています。

年の6月議会で議決)は「有難い」と思っている。しかし、今飼料が引き続き値上がりし、約倍の1kg当たり90円。一方乳価も1kg当たり112円から114円。生産原価は124円から127円で12円の赤字。国の支援策はあるがきわめて不十分。継続的な支援を行政に是非お願いしたい」と述べています。

党国会議員団は、酪農・畜産危機に対して、昨年の12月13日に緊急要望を政府に提出。田村貴昭衆院議員や紙智子参院議員は、国会で対策を強く求めました。また2月14日、農民運動全国連合会の役員と共に、野村農水大臣に対して餌代高騰分の直接補填などについて直訴しました。

飼料の自給の話で「市はWC Sを増やしたらどうかというが、機械を入れても日田市のように圃場整備した土地が1反、2反では機械が入られない。またまった土地がない。またビニールなど諸経費も上がっている」

と述べています。



懇談した日田酪農組合の事務所

子どもの保育料完全無償化に

23年度の予算と新規事業

3月議会に提案された当初予算案は、372億6000万円で、昨年比0.1%の減です。この中には、0~2歳の第1子保育料を市が負担する費用(8750万円)も計上されています。また「総合的な子ども支援拠点」の実施設計予算は提案されていません。22年度3月補正予算案は、1億9200万円で、補正後の総額は409億8000万円です。新規の事業は補正を含め37件で、一部を掲載します。

事業名	事業費(千円)	事業概要
天ヶ瀬温泉街復興まちづくり計画推進事業	4,822	「天ヶ瀬温泉街の復興まちづくり計画」の推進のため、地域住民との意見交換会や進捗管理の会議を開催するもの。
ひきこもりサポート事業	2,690	引きこもり状態にある方が社会参加できるよう、本人やその家族への相談支援事業を実施するもの。
公立教育・保育施設整備事業	64,882	老朽化が進む高瀬子ども園における教育・保育環境の充実をはかるため、立て替えに向けた用地購入を図るもの。
港町駐車場整備事業	29,763	観光客の駐車場確保及びエリアの有効活用を図るため、港町駐車場用地を購入し、必要な改修をおこなうもの
三和団地大規模改修事業	9,900	老朽化が著しい市営三和団地住宅A棟の住環境整備のため、エレベーターの設置やバリアフリー化などの大規模改修を行なうもの。
地球温暖化対策脱炭素推進事業	16,309	カーボンニュートラル実現のため、再生可能エネルギーを導入する長期ビジョンを定め、これを反映した地球温暖化対策実行計画を策定するもの。